

副校長・教頭

# 奮闘記

327

渡辺 真也

全国公立学校教頭会顧問会会長  
(新潟市立牡丹山小学校校長)



## 頑張れ！ 日本人学校

中でありながら、大変忙しそうです。

①オンライン授業(毎日午後3時半～9時)

小学部3年国語(5時間)、5年国語(5時間)、6年社会(3時間)

②金曜日に担当教科の1週間分の課題送信

③課題の添削指導を当日中に投稿

④職員会議(毎週水曜午後8～9時)

教頭先生が授業を受け持つことは小規模の日本人学校では普通です。でも現地の時刻に合わせる授業をしているので、仕事がほぼ夜中です。課題作成のため、自費で教師用指導書を

購入したそうです。

その教頭先生以外にも自宅待機中の先生方から話を聞きました。やはり、

約半数の学校は日本からオンライン授業を実施していました。学級担任の先生は、自分の学級の子どもたちとは画面では毎日会っているけど、実際に会えないのが寂しいと話していました。

校長で自宅待機の先生は、職員会議、着任式や始業式のあいさつもオンラインで行ったそうです。さらに金銭的に大変な状況もあるようです。派遣が決まり、自宅や自動車を売却した後で自宅待機になったため住むところがありません。その上、現地のアパートは住んでいなくても家賃を支払わなければならないので、もう100万円以上支払っているとのこと。「国からの補助があればいいが今更諦められない」と派遣を希望したことを後悔しているようでした。

日本の学校は少しずつ日常を取り戻しています。これから各国の在外教育施設でも状況が改善することを心から祈っています。その国に住む子どもたちや、現地で奮闘している先生たち、自宅待機中の先生たちも、現地で実際に対面し、やりがいを感じながら、生き生きとした学校生活を送ることを願っています。

日本ではコロナ禍の規制が徐々に緩和されてきていますが、世界には厳しいロックダウンが続いている国がたくさんあります。現在、在外教育施設は日本人学校が95校、補習授業校が230校あります。それぞれ2万人以上の子どもたちが学習しています。この4月から欧州の日本人学校に派遣されるはずだった、ある教頭先生の話聞いて驚きました。外務省の感染症危険レベルが3から2に引き下げになるまでは日本で自宅待機なのです。外務省のホームページで見ると、世界のほとんどの国がレベル3であることが分かります。つまり、今年の派遣者はまだ赴任できていないのです。現地に残っている先生方だけで授業をしていることを考えたら、いかに大変な状況であるか容易に想像できます。ところが、その教頭先生は、自宅待機

## オンラインで授業・会議実施

在宅勤務  
コロナ禍で